



2020年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年3月23日

上場会社名 日本オラクル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4716 URL <http://www.oracle.com/jp/corporate/investor-relations/index.html>
 代表者 (役職名) 代表執行役 最高法務責任者(CLO) (氏名) 金子 忠浩
 問合せ先責任者 (役職名) IR部 シニア・マネジャー (氏名) 西尾 有貴 (TEL) 03-6834-6666
 四半期報告書提出予定日 2020年4月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年5月期第3四半期の業績(2019年6月1日～2020年2月29日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年5月期第3四半期	148,887	6.5	46,343	9.2	46,353	9.2	32,069	9.1
2019年5月期第3四半期	139,784	6.1	42,421	8.1	42,430	8.3	29,387	8.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年5月期第3四半期	250.56		250.33					
2019年5月期第3四半期	229.68		229.39					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年5月期第3四半期	256,586	175,684	68.4
2019年5月期	269,518	160,288	59.4

(参考) 自己資本 2020年5月期第3四半期 175,522百万円 2019年5月期 160,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年5月期	—	0.00	—	136.00	136.00
2020年5月期	—	0.00	—		
2020年5月期(予想)					

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 次期の配当金は未定です。

3. 2020年5月期の業績予想(2019年6月1日～2020年5月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高	1株当たり 当期純利益
	%	円
通期	1.0 ～5.0	340.00 ～350.00

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注2) 2020年5月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(注3) 予想実効税率は30.8%です。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年5月期3Q	128,172,771株	2019年5月期	128,098,771株
② 期末自己株式数	2020年5月期3Q	118,353株	2019年5月期	184,430株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年5月期3Q	127,992,953株	2019年5月期3Q	127,951,035株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託および株式付与ESOP信託を導入しております。信託が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。また、当該信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想の利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P3.「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 業績の概要

当第3四半期累計期間（自 2019年6月1日 至 2020年2月29日。以下、「当四半期」）の経営成績につきましては、売上高148,887百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益46,343百万円（前年同期比9.2%増）、経常利益46,353百万円（前年同期比9.2%増）、四半期純利益32,069百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

当四半期における当社の属する国内の情報サービス産業においては、システム更新需要の他、モバイル対応、IoT等デジタルデータを活用した業務効率化、エンドユーザーとの接点強化など企業成長、競争力強化を目的とするクラウドおよびIT投資が堅調に推移しております。

今般の新型コロナウイルスについて、現時点で当社業績に対する影響について精査しておりますが、直近に公表している業績予想に変更はありません。当社としても、社員および顧客企業をはじめとするあらゆるステークホルダーの安全と健康を守り、安定的に事業運営を継続していくための対策を講じることが最重要課題のひとつと捉えております。

市場展開方針

当社は、クラウドサービスやデータを活用し、顧客企業のイノベーションの実現とビジネスの変革を支援することにより、さらなる企業成長をめざしております。

また、当社はシステムを構築するために必要なプラットフォーム製品、業務アプリケーション、ハードウェアまでを、クラウド、オンプレミスいずれの環境においても展開可能な総合的製品ポートフォリオを有しております。特にソフトウェア・ライセンス製品は、長年、高度なセキュリティ、可用性と高速処理性能が求められるミッションクリティカル領域で広く採用されております。新たな事業の柱として注力しているオラクルクラウドは、このソフトウェア・ライセンスと同じ設計思想、同じ技術で構築しており、オラクルのソフトウェア・ライセンスで構築したオンプレミス・システムとオラクルクラウドとの連携、双方向の移行を可能とすることを強みとしております。

これらの強みを活かし、注力ポイントである「大型案件の獲得」、オラクルクラウドにAIを組み込み、パッチ適用やパフォーマンス・チューニングなどの保守運用の自律化を行う「Oracle Autonomous Database」へのアップグレード、「ERPアップグレード」をさらに加速させるため、2019年5月東京地域に開設した「Generation2 Cloud」データセンターに加え、2020年2月に大阪地域にデータセンターを開設し、エンタープライズのワークロード、セキュリティに対応したクラウドサービスを提供してまいります。

また、市場規模に応じたあらゆる業種のお客様向けに営業部隊を構築し、当社の価値を訴求し続けております。

[用語解説]

- * クラウドサービス：企業等のITシステムに利用されるソフトウェアやハードウェアのリソースを、インターネットを通じてサービスとして提供する形態。
- * オンプレミス：ITシステムを自社所有で構築・運用する形態。

第3四半期会計期間（自 2019年12月1日 至 2020年2月29日）の営業状況

クラウドライセンス&オンプレミスライセンスについては、製造、流通サービス、通信公益を始めとする幅広い業種のお客様からの引合いが引き続き堅調に推移いたしました。上記の市場展開方針により、当社製品・サービスの価値訴求を積極的に展開し、大型から中堅、小規模に亘った様々な案件を引き続き獲得することができました。

また、「Oracle Autonomous Database Cloud」を始めとするクラウドサービスについては、パフォーマンスやセキュリティ、費用対効果を重視されるお客様からの引合いが多く、2019年5月に開設した東京地区データセンターの利用量は引き続き順調に増加しており、適宜設備増設を行っております。

ライセンスサポートについては、高い契約更新率を維持しており、クラウドライセンス&オンプレミスライセンスの販売に伴う新規保守契約も堅調を維持しております。

ハードウェア・システムズにつきましては、2019年9月に提供を開始したインテル社製の“Persistent Memory（永続性メモリ）”を搭載した、”Oracle Exadata Database Machine X8M “は引き続き多くの引き合いをいただいております。Exadata X8Mは、ストレージ・ボトルネックを排除し、オンライン・トランザクション処理（OLTP）、アナリティクス、IoT、不正検出、高頻度取引など、最も過酷なワークロード向けにパフォーマンスを大幅に向上させます。

<報告セグメント別売上高の状況>

区分	2019年5月期 第3四半期		2020年5月期 第3四半期			2019年5月期	
	金額	構成比	金額	構成比	対前年 同期比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
クラウドライセンス& オンプレミスライセンス	28,901	20.7	32,552	21.9	12.6	52,747	26.1
クラウドサービス& ライセンスサポート	81,879	58.6	87,701	58.9	7.1	110,066	54.4
クラウド&ライセンス	110,781	79.3	120,253	80.8	8.6	162,813	80.4
ハードウェア・システムズ	12,975	9.3	12,582	8.5	△3.0	18,340	9.1
サービス	16,027	11.5	16,051	10.8	0.2	21,234	10.5
合計	139,784	100.0	148,887	100.0	6.5	202,389	100.0

(注) 金額は単位未満を切り捨て、構成比ならびに対前年同期比は単位未満を四捨五入で表示しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は256,586百万円(前事業年度末比12,931百万円減)となりました。

オラクル・ジャパン・ホールディング・インク(当社の親会社)に対する最長で2019年2月より2年間を貸付期間とするローンの追加実施(30,000百万円)及び関係会社貸付金の固定資産から流動資産への振替(160,000百万円)等により、流動資産は211,230百万円(前事業年度末比118,224百万円増)となり、固定資産は45,356百万円(前事業年度末比131,156百万円減)となりました。

負債は80,902百万円(前事業年度末比28,328百万円減)、純資産は175,684百万円(前事業年度末比15,396百万円増)となりました。この結果、自己資本比率は68.4%(前事業年度末比9.0ポイントアップ)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月28日に発表いたしました2020年5月期の業績予想より変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年2月29日)
資産の部		
貸倒引当金	△12	△12
固定資産		
その他(純額)	3,743	3,020
無形固定資産	2	1
貸倒引当金	△34	△0
固定資産合計	176,512	45,356
負債の部		
その他	3,232	4,081
固定負債		
その他	7	7
固定負債合計	7	7
負債合計	109,230	80,902
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,679	24,857
資本剰余金	8,030	8,208
利益剰余金	128,580	143,229
自己株式	△1,211	△773
株主資本合計	160,078	175,522
新株予約権	209	161
純資産合計	160,288	175,684
負債純資産合計	269,518	256,586

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年6月1日 至2019年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自2019年6月1日 至2020年2月29日)
売上高	139,784	148,887
売上総利益	66,252	71,458
営業利益	42,421	46,343
その他	25	30
営業外費用		52
		39
その他	41	2
		42
経常利益	42,430	46,353
新株予約権戻入益	17	12
	17	12
税引前四半期純利益	42,448	46,365
法人税等	13,061	14,296
四半期純利益	29,387	32,069

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	クラウド& ライセンス	ハードウェア ・システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	110,781	12,975	16,027	139,784	—	139,784
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	110,781	12,975	16,027	139,784	—	139,784
セグメント利益	41,090	569	3,764	45,425	△3,004	42,421

(注) 1. セグメント利益の調整額 △3,004百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	クラウド& ライセンス	ハードウェア ・システムズ	サービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	120,253	12,582	16,051	148,887	—	148,887
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	120,253	12,582	16,051	148,887	—	148,887
セグメント利益	46,522	629	2,622	49,775	△3,431	46,343

(注) 1. セグメント利益の調整額 △3,431百万円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。